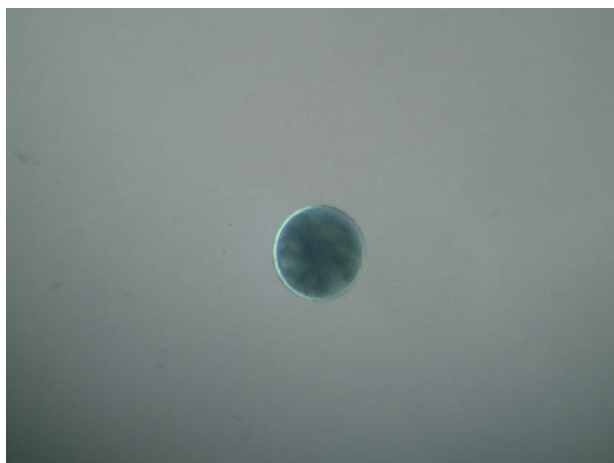


吸虫性旋回病(trematode whirling disease)

Galactosomum sp.



魚類脳内に寄生する様子



取り出した吸虫の幼生(メタセルカリア)

発生生態

本虫による被害は主に8月から9月の高水温期に集中します。府内ではハゼ類やハオコゼなどの天然魚で確認されることがほとんどですが、ブリなどの養殖魚にも被害が出ることもあります。本虫は魚類を第2中間宿主とし、その脳に寄生します。寄生された魚は海面をクルクルと旋回しながら泳ぎます。これにより、終宿主のウミネコに捕食されやすくなります。

防除対策

第1中間宿主が見つかっておらず生活環が未解明のため、根本的な対策が立てられないのが現状です。魚への侵入期が限られているため、現実的手段としてはその間に魚の飼育を避けることしかありません。